

## その他の生産遺跡

宮城県教育委員会 高橋 透

**所在地** 宮城県栗原市、大崎市、色麻町、大和町、石巻市、涌谷町、塩竈市、多賀城市、仙台市、村田町、白石市、角田市、山元町

**立地環境** 丘陵斜面、段丘、扇状地、海浜部

**発見遺構** 窯、灰原、焼成坑、製塩炉など

**年代** 7世紀～10世紀

### 遺跡の概要

その他の生産遺跡は、大きく須恵器・瓦生産遺跡、土師器生産遺跡、製塩遺跡、製鉄遺跡に分けられる。須恵器生産遺跡は須恵器や瓦を生産した窯を確認した遺跡、土師器生産遺跡は土師器焼成遺構を確認した遺跡（註1）、製鉄遺跡は製鉄炉を確認した遺跡、製塩遺跡は製塩炉を確認した遺跡を取り上げ、それらの遺構を確認していない生産遺跡の可能性のある遺跡は省略した（第1図）。

#### 須恵器・瓦生産遺跡

三沢窯跡（文献7・8）は栗原市金成三沢に所在し、標高約70mの丘陵南西側斜面に立地する。開田の際に斜面で窯7基ほどの断面が確認されており、半地下式の窯であった可能性が指摘されている。採集された遺物には須恵器坏・甕、軒丸瓦・丸瓦・平瓦があり、9世紀後半以降に須恵器と瓦を生産した瓦陶兼業窯と考えられる。

合戦原窯跡（文献30）は大崎市岩出山細峯に所在し、標高約120～125mの丘陵南側斜面に立地する。窯7基が確認され、焚口部から煙道部までを検出したのは7号窯（第3図9）のみで、全長5.2m、最大幅0.8m、床面傾斜約24°、3面の床が確認されている。窯周縁には天井を架構するための構築材とみられる小柱穴群が検出されていることから、半地下式とみられ、2～4・6号窯でも同様の小柱穴が確認されている。出土遺物には須恵器坏（10）、土師器甕（11）、丸瓦・平瓦（12）があり、8世紀後半から9世紀前半と考えられる。

長根窯跡群（文献22・32～34）は涌谷町小里に所在し、標高約15～20mの丘陵南側斜面に立地する。A～G地点に分けられ、窯はA地点で6基、B地点で1基、C地点で1基の合計8基が確認されている。A地点6号窯とC地点1号窯（第3図1）で焚口部から煙道部まで確認しており、A地点6号窯は全長6.3m、最大幅1.7m、床面傾斜約18°で、地下式とみられる。床面に人頭大の粘土塊が30個ほど置かれていた。C地点1号窯は全長6.3m、最大幅1.5m、床面傾斜約23°である。もともと古く位置付けられるA地点1号窯や5号窯は8世紀初頭に位置付けられ、その後10世紀まで操業したと想定されている。

次橋窯跡（文献25）は大崎市松山次橋に所在し、標高約80mの丘陵南東側斜面に立地する。窯2基が確認され、いずれも地下式である。1号窯は焼成部のみの確認であるが、2号窯（第3図2）は全長3.5m、最大幅1.2m、床面傾斜最大30°で、5面の床が確認されている。出土遺物には須恵器蓋・坏（3～6）・高台坏・高坏（7）・甕（8）があり、8世紀中頃を中心とした年代が想定されている。

鳥屋窯跡（文献19・24）は大和町鶴巣に所在し、三角田南地区と天が沢囲地区がある。三角田南地区は標高約35～50mの丘陵南東側斜面に位置し、窯2基が検出されている。1号窯（第2図1）は全長3.5m、最大幅0.9m、床面傾斜約5～30°で、地下式である。焼成部から燃焼部、前庭部にかけて排水施設が設けられ、窯背部には溝がめぐる。2号窯は全長5.8m、最大幅1.3m、床面傾

斜約 5～20° で、2面の床が確認され、地下式である。前庭部から灰原にかけて排水溝が設けられている。出土遺物には須恵器蓋（2・6）・坏（3～5）・高台坏・高坏・鉢・短頸壺（7）・甕（8）などがあり、1・2号窯ともに8世紀前半に位置付けられている。天が沢囲地区は三角田南地区から南西約 300 mの丘陵南側斜面に位置し、窯3基が検出され、灰原を含め須恵器蓋・坏・高台坏・高坏・長頸瓶・短頸壺・甕などが出土している。

杉ノ入裏窯跡（文献 11）は塩竈市杉の入裏に所在し、海蝕によって形成された入江の標高約 6～9 mの斜面に立地する。窯3基が確認され、3号窯（第3図 13）は焚口部から煙道部まで検出し、全長 6.7 m、最大幅 1.6 m、床面傾斜約 15° で、2面の床面を確認しており、地下式である。焼成部と燃烧部の境に船底状ピットが設けられ、前庭部の壁面には周溝がめぐる。出土遺物には須恵器蓋・坏（14～16）・高台坏・鉢（18）・甕（17）などがあり、2・3号窯は8世紀後半に位置付けられている。

高崎古墳群 SR32 窯（文献 21）・高崎遺跡 SR1678 窯（文献 20）は、SR32（第4図 6）が多賀城市高崎の標高約 4～5 mの丘陵西側斜面、SR1678 は多賀城市留ヶ谷の標高 21～25 mの丘陵東側斜面に立地する。SR32 は全長 6.8 m、最大幅 1.8 m、焚口幅 1.0 mで、2面の床が確認され、2次床面の傾斜は約 8° である。地下式とみられる。SR1678 は焚口部から前庭部削平されているが、3面の床が確認され、地下式とみられる。出土遺物には須恵器蓋（7・8）・坏・瓶・甕（9）、焼台などがある。SR32 は6世紀末から7世紀第1四半期、SR1678 は7世紀前半に位置付けられている。

土手内窯跡（文献 18）は仙台市太白区土手内1丁目に所在し、標高斜面約 32～35 mの丘陵南側斜面に立地する。窯3基が検出され、いずれも燃烧部の一部から焚口部が削平されているが、3号窯は3面の床を確認している。地下式とみられる。出土遺物には須恵器甕、焼台があり、焼台は甕胴部を方形や台形状に加工されたものが用いられ、7世紀中葉を中心とした年代が想定されている。

北前窯跡（文献 17）は仙台市太白区山田に所在し、標高約 60～61 mの段丘斜面に立地する。窯1基が検出され（第5図 1）、全長 4.6 m、最大幅 0.9 m、床面傾斜約 10° 、2面の床が確認されている。半地下式とみられる。出土遺物には、灰原を含め須恵器坏（2）・高台坏（3）・鉢・甕（4）などがあり、平安時代に位置付けられている。

北野・南台窯跡（文献 3・23）は名取市高館川上から塩出にかけて所在し、標高約 20～30 mの丘陵斜面に立地する。北野窯跡では斜面の土砂崩落によって窯数基が確認され、南台窯跡でも宅地造成時に窯2基の断面が確認されている。出土遺物は、北野窯跡では須恵器すり鉢・甕、南台窯跡では蓋・高台坏・甕が採集されており、前者は7世紀中葉、後者は8世紀代に位置付けられている。

北日ノ崎窯跡（文献 31）は村田町沼辺に所在し、標高 30～34 mの丘陵南側斜面に立地する。窯4基が検出され、2・3号窯で前庭部から煙道部まで確認されており、2号窯（第4図 1）は全長 7.5 m、最大幅 1.6 m、床面傾斜約 20° である。3号窯は全長 7.3 m、最大幅 1.3 m、床面傾斜約 15° で、前庭部に土坑が設けられている。いずれも地下式とみられる。出土遺物には須恵器蓋（2）・坏（4）・高台坏（3）・長頸瓶（5）・鉢・甕があり、いずれも8世紀前半に位置付けられている。

八幡坂窯跡（文献 12）は白石市大平森合に所在し、標高約 65～71 mの丘陵東側斜面に立地する。窯は北区で4基（1～4号窯）、南区で6基（5・8・10～13号窯）の計10基が検出され、このうち4・5・8・10・13号窯で焚口部から煙道部まで確認されている。4号窯（第4図 10）は全長 6.4 m、最大幅 1.3 m、床面傾斜約 19° で、焼成部から前庭部をとおり窯外へ伸びる暗渠排水溝が設けられている。5号窯は全長 5.8 m、最大幅 1.5 m、床面傾斜約 20° である。8号窯は全長 6.7 m、最大幅 1.2 m、焚口幅 0.8 m、床面傾斜 15° である。10号窯は全長 4.8 m、最大幅 1.2 m、床面傾斜約 26° である。13号窯（16）は全長 5.6 m、最大幅 1.8 m、床面傾斜約 17～21° である。5・13号窯は地下式、

1～4・7～11号窯は半地下式である。出土遺物には須恵器蓋(11)・坏(12～14・17～22)・埴・長頸瓶(15)・甕・風字硯などがあり、5・8・13号窯は8世紀初頭、2・4号窯は9世紀初頭から中頃、1・3・10号窯は9世紀後半、11・12号窯は9世紀末から10世紀初頭に位置付けられている。

元山遺跡・前山遺跡(文献10)は白石市八幡町・南町に所在し、丘陵上に立地する。それぞれ窯1基が確認され、元山遺跡では多数の瓦が採集されていることから、瓦窯の可能性が高い。

川前窯跡(文献5)は角田市藤田に所在し、標高25～28mの丘陵北側斜面に立地する。窯3基が確認され、いずれも部分的に削平されているが、1号窯は7面、2・3号窯は3面の床が検出されている。いずれも地下式とみられる。出土遺物には須恵器蓋・坏・高台坏・短頸壺・鉢・甗・甕、丸瓦・平瓦があり、7世紀末から8世紀初頭に位置付けられている。

峯瓦窯跡・鹿野窯跡・裏林窯跡(文献4・5)は角田市藤田・角田に所在し、丘陵斜面に立地する。峯瓦窯跡では2基、鹿野窯跡・裏林窯跡でそれぞれ1基の窯が確認されている。

合戦原遺跡(文献29)は山元町高瀬に所在し、標高約23～26mの丘陵南側斜面に立地する。窯3基が確認され、1号窯(第5図5)は前庭部から煙道部まで検出されており、全長9.1m、最大幅2.0m、焚口幅1.4m、床面傾斜約17～22°で、地下式である。出土遺物には須恵器甕、土師器甕があり、8世紀後半から9世紀初頭に位置付けられている。

北名生東窯跡・宮城療養所窯跡(文献6・29)は山元町真庭・高瀬に所在し、丘陵斜面に立地する。それぞれ窯1基が確認され、出土遺物には須恵器蓋・坏・高台坏・長頸瓶・甕などがある。

#### 土師器生産遺跡

上新田遺跡(文献28)は色麻町四竈に所在し、花川右岸に形成された標高約50mの扇状地上に立地する。底面や壁面に焼面のみられる土坑17基が検出され、長方形または台形状を呈し(第6図1～5)、長軸1.6～2.8m、短軸短辺0.7～1.5m、長辺1.1～2.0m、深さ0.1～0.5mである。焼面は底面および壁面の一部に確認できるもの、底面から壁面全体に確認できるものがある。また竪穴建物内で確認できるものや、土坑を中心として掘立建物を伴うもの(1)も認められる。出土遺物には土師器坏・鉢・甕(6・7)などがあり、被熱によって器面が剥離しているものもある。平安時代に位置付けられている。

長根窯跡群(文献33)の所在と立地は前述のとおりであるが、土師器焼成遺構はA地点で土坑3基が検出されており、いずれも底面や壁面が焼面が認められる。1基は3号窯北側で直径約1mの円形、1基は6号窯東側で長軸1.8m、短軸1.7m、深さ0.2mで二等辺三角形形状を呈す。出土遺物には土師器、焼土、炭化物がある。

箕輪山遺跡(文献1)は石巻市大田に所在し、旧北上川左岸の標高約20mの丘陵斜面に立地する。焼土遺構5基が検出されており、いずれも長軸0.7～2.0m、短軸0.5～1.6mの円形または楕円形で、底面から壁面に焼面が認められる。出土遺物には被熱した土師器がある。

羽黒堂遺跡(文献27)は仙台市太白区山田本町に所在し、名取川左岸の標高約65mの段丘上に立地する。土師器焼成遺構8基が検出され、長方形または円形を呈し(第6図8)、長軸0.3～1.4m、短軸0.2～0.7m、深さ0.3～0.4mである。床面や壁面に焼面が認められ、2-B号窯では床面に白色粘土が貼られている。出土遺物には土師器坏(9)・高台坏(10)・甕(11)があり、平安時代に位置付けられている。

#### 製鉄遺跡

嶺山C遺跡(文献16)は仙台市茂庭に所在し、標高128～130mの丘陵斜面南側に立地する。東西約20m、南北約5mの平坦面が造成され(第7図1)、その中央南側で製鉄炉1基が検出されてい

る。製鉄炉（２）は長軸約 3 m、短軸約 2 m の鍵穴状を呈し、深さ 5 cm である。炉底は約 15cm の厚さで砂が敷かれたのち、その上部に粘土が貼られている。炉壁は西辺・東辺で高さ約 13cm ほど残存し、東辺では厚さ最大 38cm でスサ入りの粘土とともに礫を用いて構築されている。製鉄炉西側の平坦面から土師器坏・甕が出土し、平安時代に位置付けられている。

### 製塩遺跡

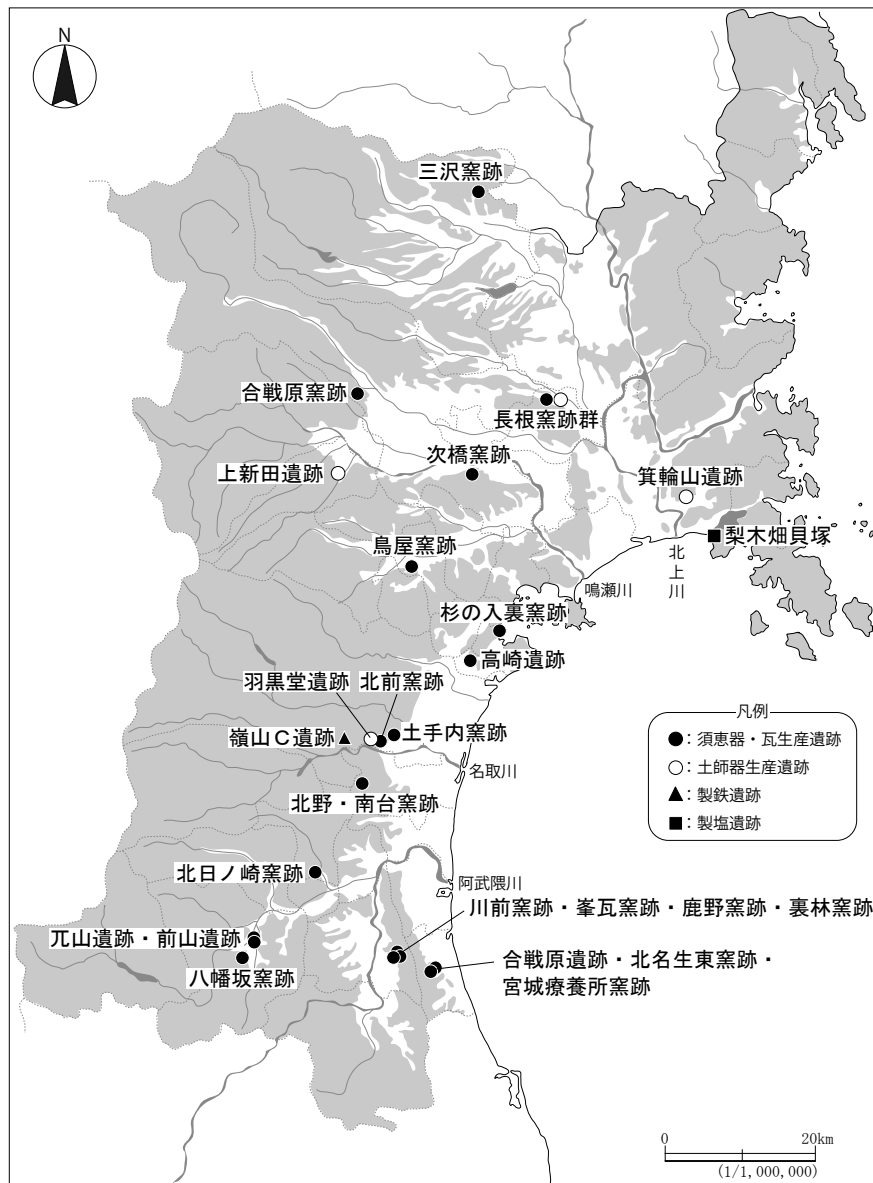
梨木畑貝塚（文献 2）は石巻市渡波に所在し、標高 1 ～ 16 m の丘陵北側斜面に立地する。製塩炉 1 基が検出され（第 8 図 1）、長軸 5.7 m、短軸 3.7 m の楕円形を呈す。出土遺物には多量の製塩土器や土製支脚（３）のほか、須恵器坏、土師器坏（２）がある。

註 1 ここでは文献 13 を参考に、土師器を焼成した可能性の高い遺構を検出した遺跡のみを取り上げた。

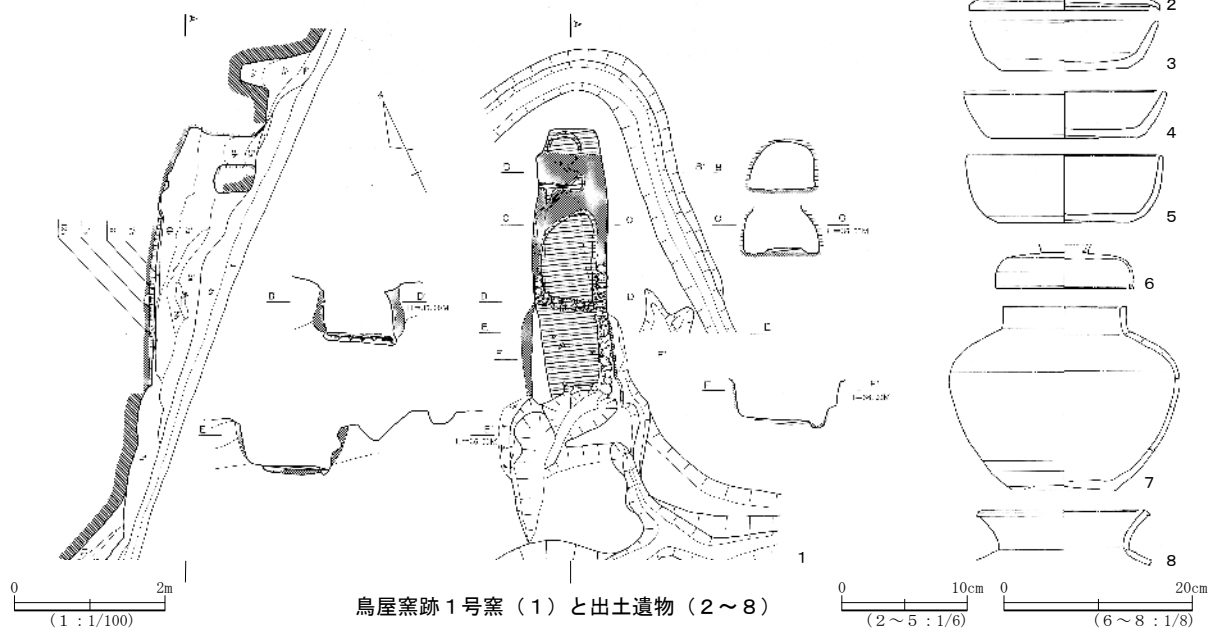
### 関連文献

- 1・2 石巻市教育委員会 1995・2004『箕輪山』・『梨木畑貝塚』石巻市文化財調査報告書第 6・12 集
- 3 太田昭夫 2021「名取市域の須恵器窯跡」『名取市歴史民俗資料館年報—令和 2 年度—』pp. 32-44
- 4 角田市教育委員会 1979『遺跡・遺物』角田市の文化財第 9 集
- 5 角田市教育委員会 1996『川前窯跡発掘調査報告書』角田市文化財調査報告書第 18 集
- 6 鍛冶一郎 1971「合戦原窯跡址群」『山元町誌』pp. 724-747
- 7 栗原市教育委員会 2010『伊治城跡』栗原市文化財調査報告書第 11 集
- 8 古窯跡研究会 1976『陸奥国官窯跡群Ⅱ』古窯跡研究会研究報告第 4 冊
- 10 佐々木和博・菊池逸夫 1983「白石市元山遺跡の古瓦」『赤い本』片倉信光氏追悼論文集 pp. 55-64
- 11 塩竈市教育委員会 1990『杉の入裏窯跡』塩竈市文化財調査報告書第 3 集
- 12 白石市教育委員会 2009『八幡坂遺跡ほか発掘調査報告書』白石市文化財調査報告書第 34 集
- 13 菅原祥夫 1997「東北東部」『古代の土師器生産と焼成遺構』pp. 205-222 窯跡研究会
- 14 菅原祥夫 2010「東北」『古代窯業の基礎研究—須恵器窯の技術と系譜—』pp. 459-492 窯跡研究会
- 15 菅原祥夫・佐藤敏幸 2004「陸奥国中南部の須恵器窯」『須恵器窯構造資料集 2—8 世紀中頃～12 世紀を中心に—』pp. 29-59 窯跡研究会
- 16～18 仙台市教育委員会 1983・1987・1992『茂庭』・『北前遺跡』・『土手内』仙台市文化財調査報告書第 45・105・165 集
- 19 大和町教育委員会 1972『鳥屋遺跡調査報告』
- 20・21 多賀城市教育委員会 2007・2011『高崎遺跡』・『多賀城市内の遺跡 2』多賀城市文化財調査報告書第 89・103 集
- 22 高橋透 2019「長根窯跡群 A 地点 1 号窯出土須恵器の再評価」『宮城考古学』第 21 号 pp. 167-174
- 23 千葉宗久・太田昭夫 1973「名取市高館箕輪南台須恵器窯跡について」『宮教考古』第 5 号
- 24・25 東北学院大学考古学研究部 1975・1983『温故』第 9・13 号
- 26 東北古代土器研究会 2008『東北古代土器集成—須恵器・窯跡編—<陸奥>』研究報告 3
- 27 羽黒堂遺跡発掘調査団 1980『羽黒堂遺跡発掘調査報告』
- 28・29 宮城県教育委員会 1981・1991『長者原貝塚・上新田遺跡』・『合戦原遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第 78・140 集
- 30 宮城県多賀城跡調査研究所 1986『名生館遺跡Ⅵ』多賀城関連遺跡発掘調査報告書第 11 冊
- 31 村田町教育委員会 1988『北日ノ崎窯跡』村田町文化財調査報告書第 6 集
- 32～34 涌谷町教育委員会 1971・1972・1976『長根窯跡Ⅰ～Ⅲ』

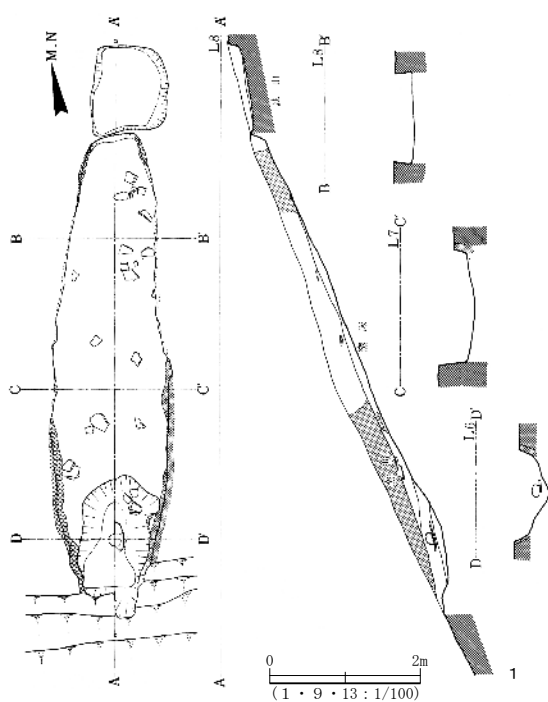




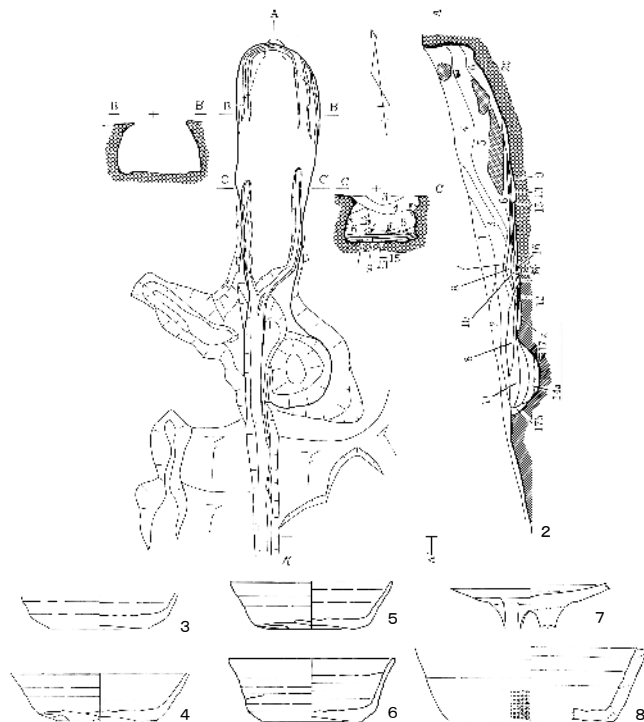
第1図 その他の生産遺跡の位置 (新規作成)



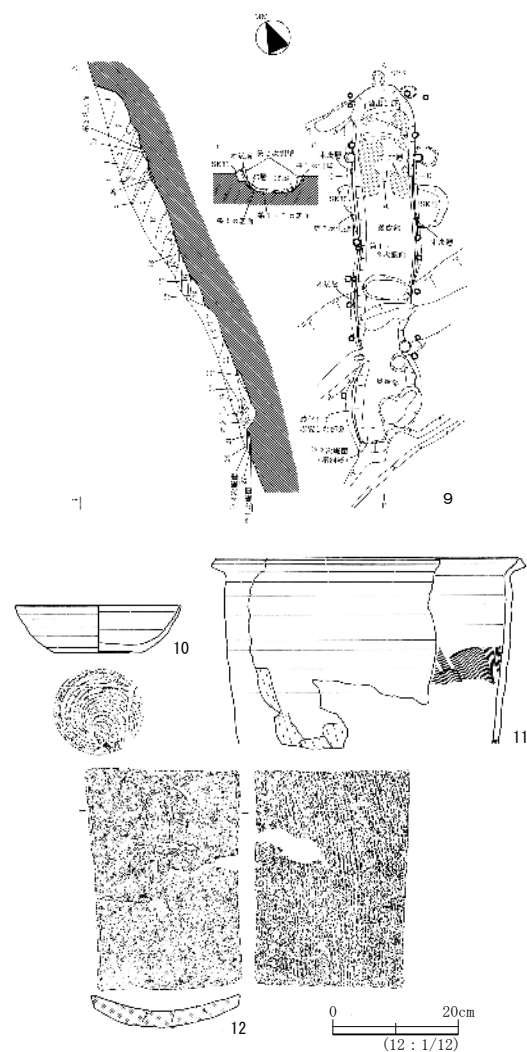
第2図 その他の生産遺跡 須恵器・瓦生産遺跡 (1) (文献24から作成)



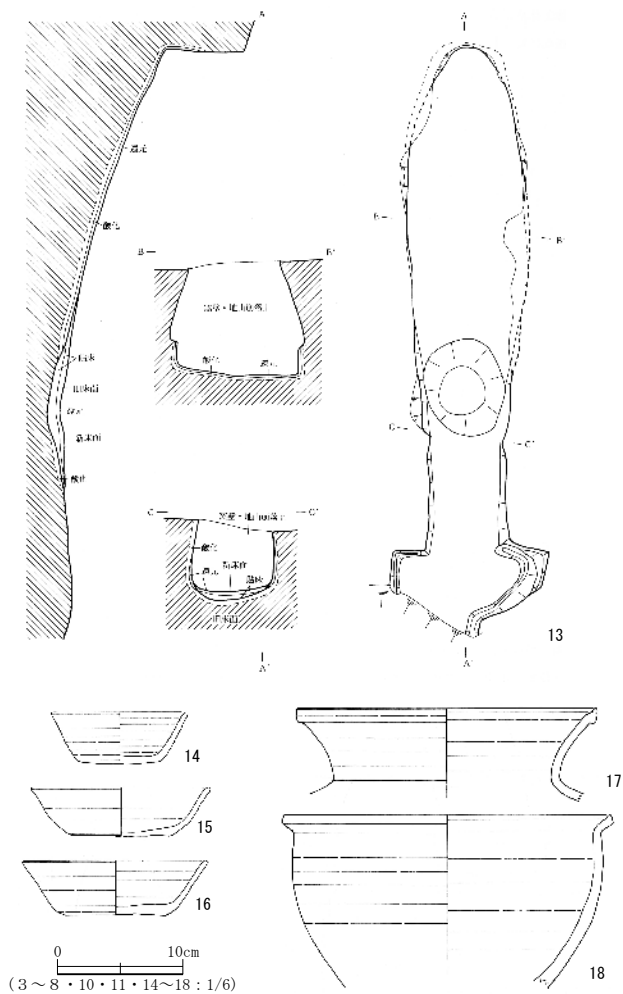
長根窯跡群C地点1号窯 (1)



次橋窯跡2号窯 (2) と出土遺物 (3~8)

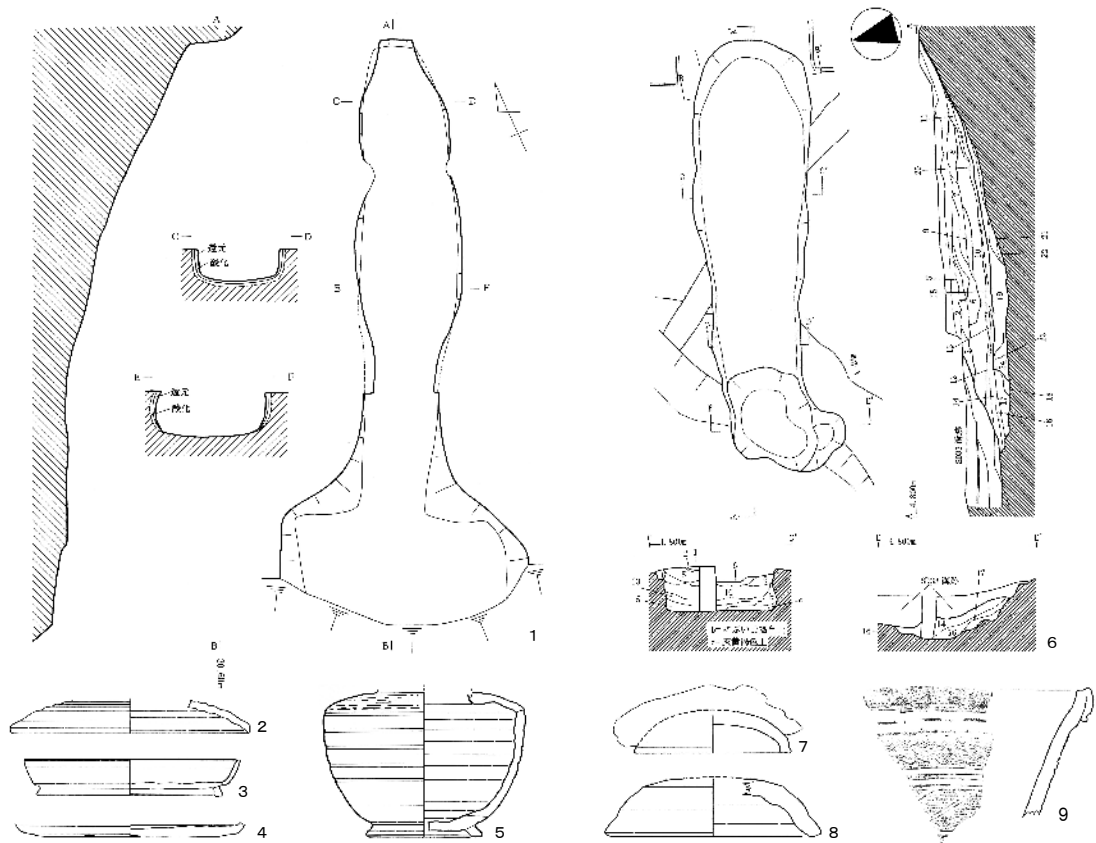


合戦原窯跡7号窯 (9) と出土遺物 (10~12)



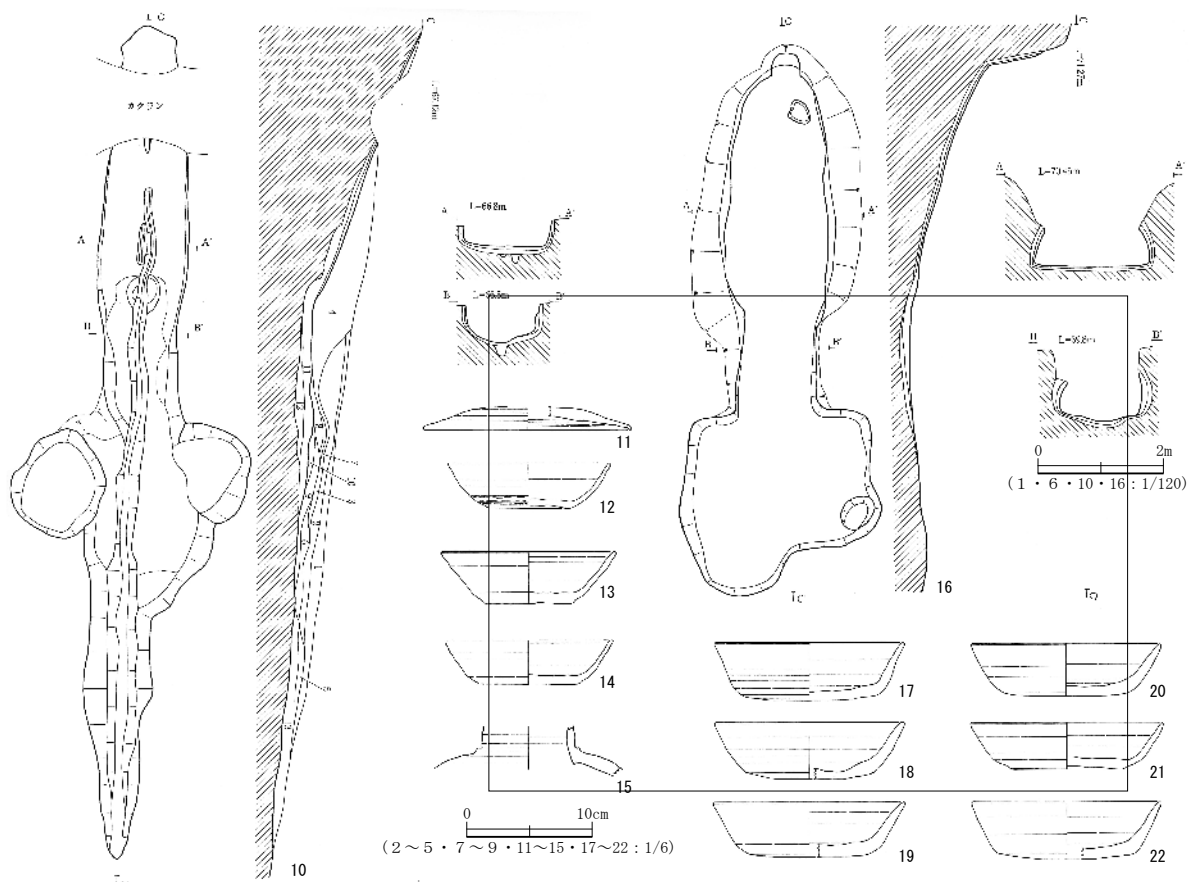
杉の入裏窯跡3号窯 (13) と出土遺物 (14~18)

### 第3図 その他の生産遺跡 須恵器・瓦生産遺跡 (2) (文献11・25・30・32・33から作成)



北日ノ崎窯跡 2号窯 (1) と出土遺物 (2～5)

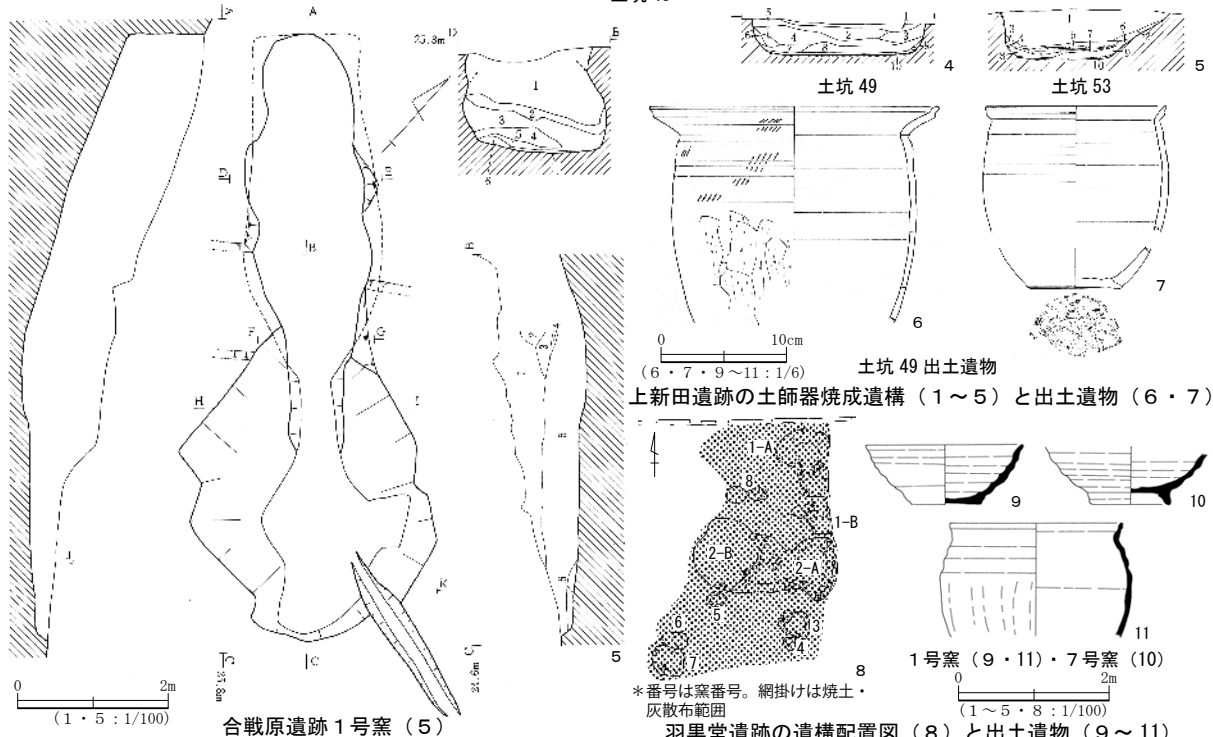
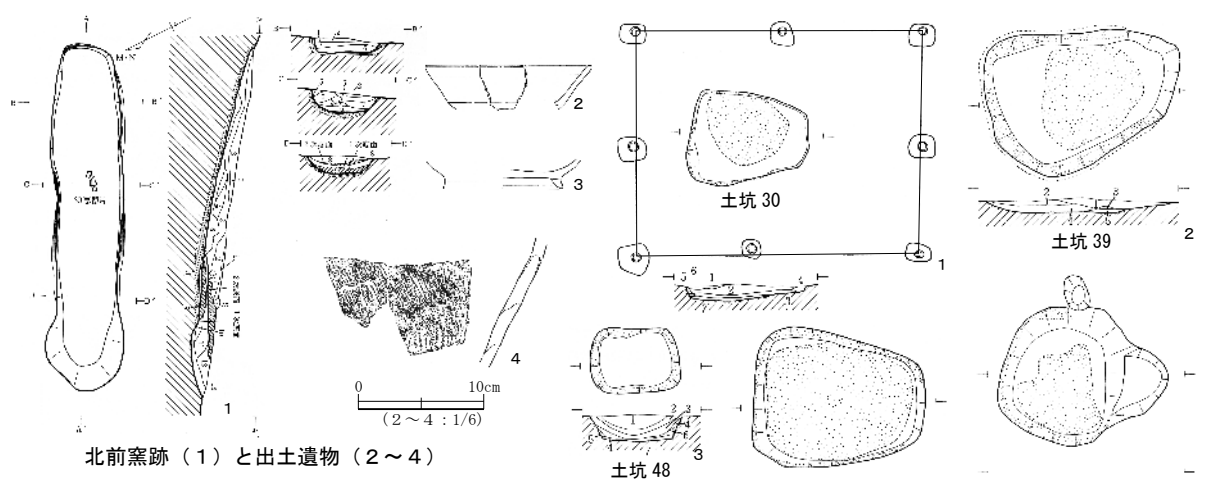
高崎古墳群 SR32 (6) と出土遺物 (7～9)



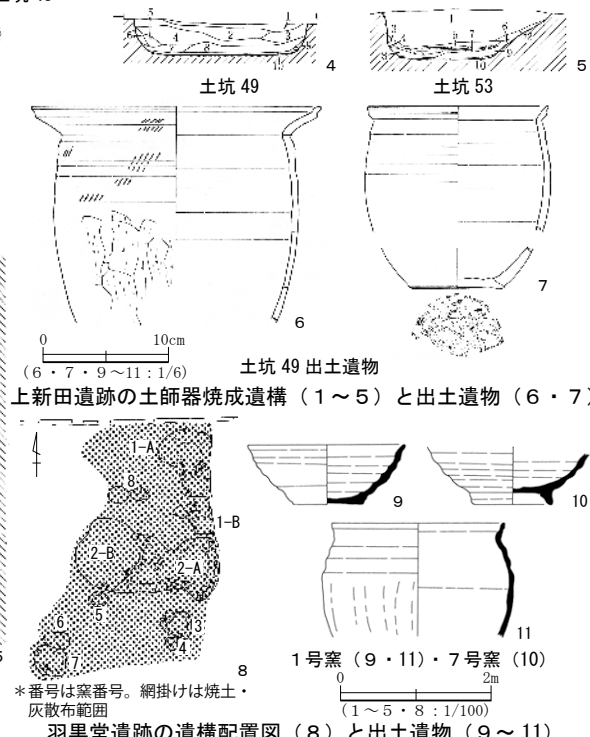
八幡坂窯跡 4号窯 (10) と出土遺物 (11～15)

八幡坂窯跡 13号窯 (16) と出土遺物 (17～22)

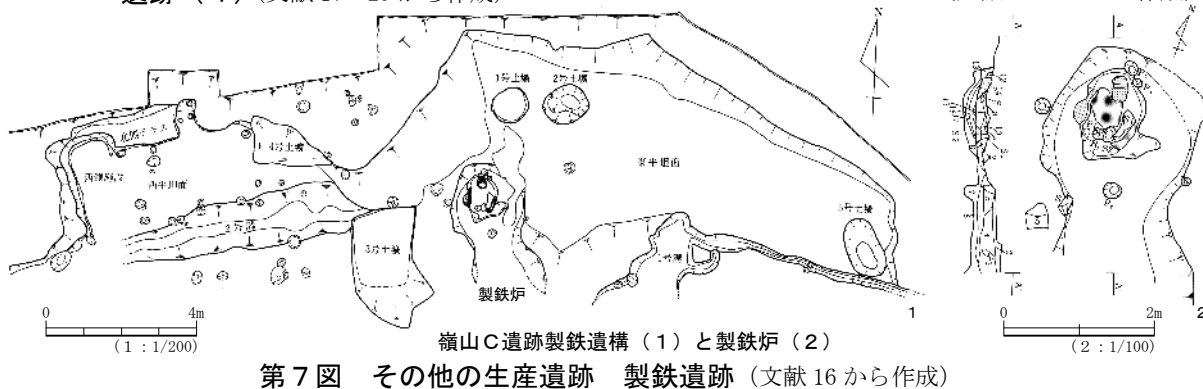
第4図 その他の生産遺跡 須恵器・瓦生産遺跡 (3) (文献 12・20・31 から作成)



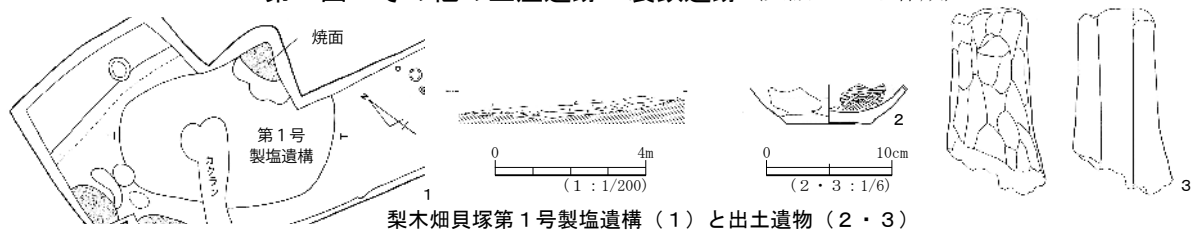
第5図 その他の生産遺跡 須恵器・瓦生産  
遺跡（4）（文献17・29から作成）



第6図 その他の生産遺跡 土師器生産遺跡  
(文献 27・28 から作成)



第7図 その他の生産遺跡 製鉄遺跡（文献16から作成）



第8図 その他の生産遺跡 製塩遺跡（文献2から作成）